

## 4 - 2 近年の伊豆半島及び周辺の地震の時間 - 空間分布 Space-time Distribution of Recent Earthquakes in Izu Peninsula and its Adjacent Region

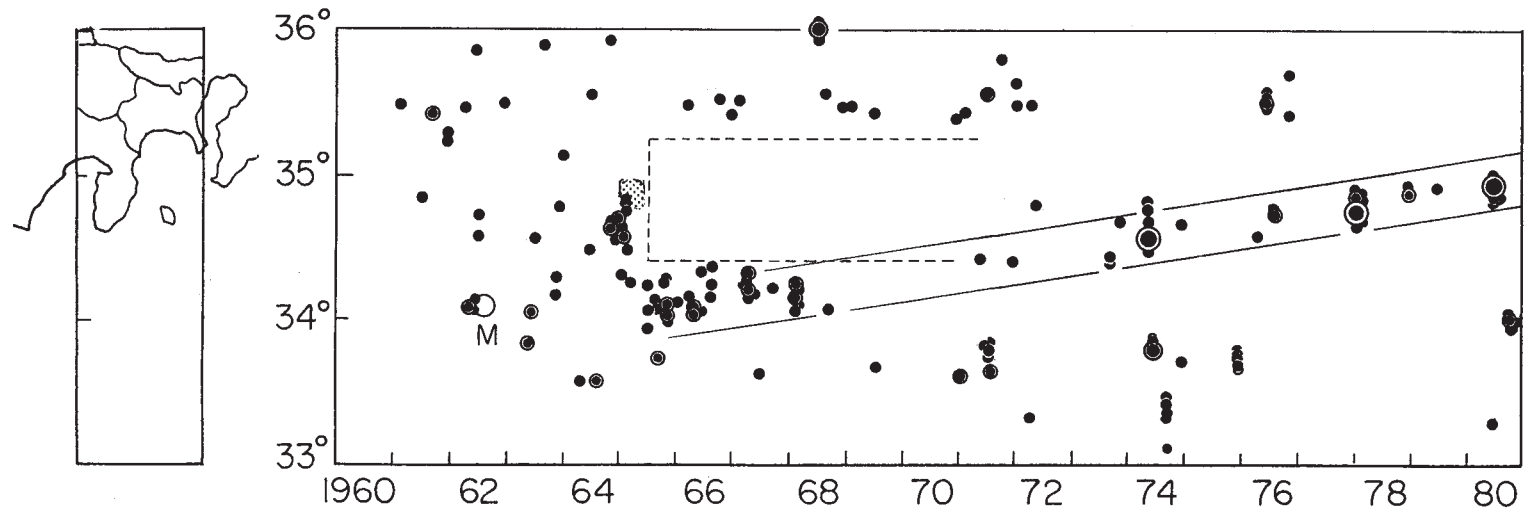
東京大学地震研究所

茂木 清夫

Kiyoo Mogi

Earthquake Research Institute, University of Tokyo

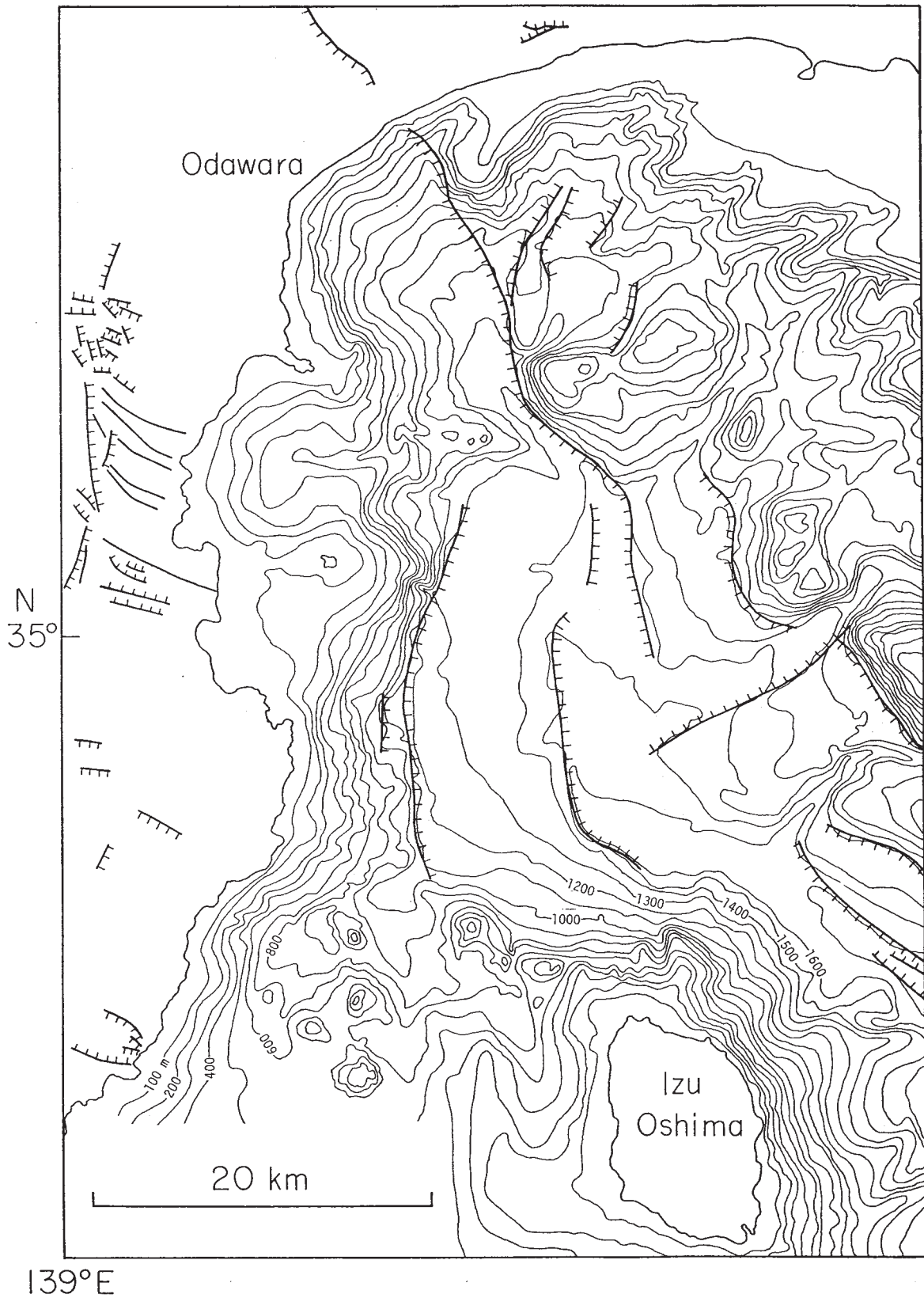
伊豆半島及び周辺の近年の地震活動の時間 - 空間分布を調査した。第1図は左側の地図に示した範囲内に発生した1960年以降のM4以上の地震(資料は地震月報)で緯度を縦軸, 時間を横軸にプロットしたもので, 特徴のあるパターンが認められる。即ち, (1)1964・1965年の伊豆半島 - 大島にかけての群発地震活動とそれに続く空白期間, (2)それと相補的にみえるその南側隣接地域での活発化, (3)1971年頃からはじまった地震活動域の北上の傾向, などが顕著である。この北上の傾向は(2)をも含めて1965年頃から始まったとみることもできよう。最近では1980年の伊豆半島東方沖地震が, 伊豆半島地塊の東側に起こった。第2図に示すように相模湾の西側には南北走向の海底活断層が推定されているが1980年の地震はその南半分で起こったとみられる。したがって, その北側は未破壊のまま残っている可能性があるかも知れない。第3図及び第4図にそれぞれ気象庁及び震研(津村ら, 1981)による最近の小地震の分布を示したが, この部分の地震活動が低く, むしろ周辺でやや活動がみられるのはこれまでの北上の傾向と合わせて気になる所である。但し, 1923年の関東地震の時にこの部分のひずみが解放され, まだ, その蓄積が十分でない可能性もあるので, 上記の最近の傾向を考慮して, 観測を継続するのが適当であろう。



第1図 伊豆半島及びその周辺の浅い地震 ( $M \geq 4.0$ ) の時間-空間分布。

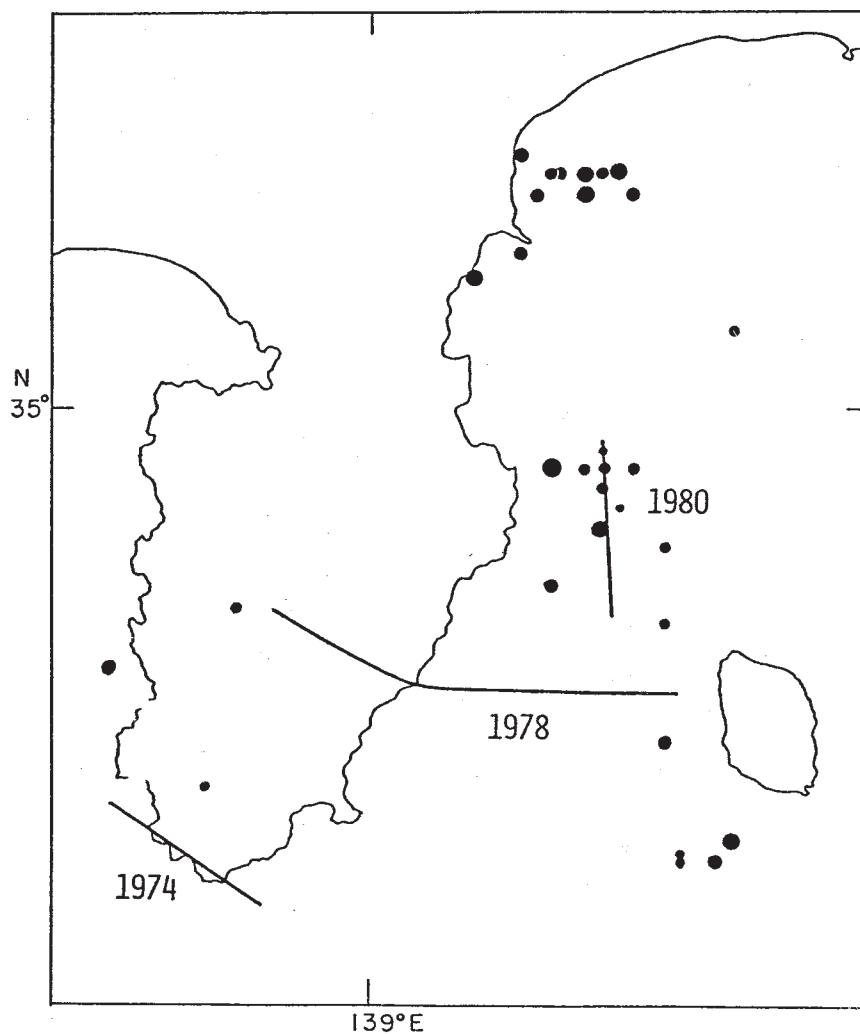
データは気象庁地震月報による。

Fig. 1 Space-time distribution of shallow earthquakes of magnitude 4.0 and larger in Izu Peninsula and its surrounding region. Data are taken from Seismological Bulletin of Japan Meteorological Agency.



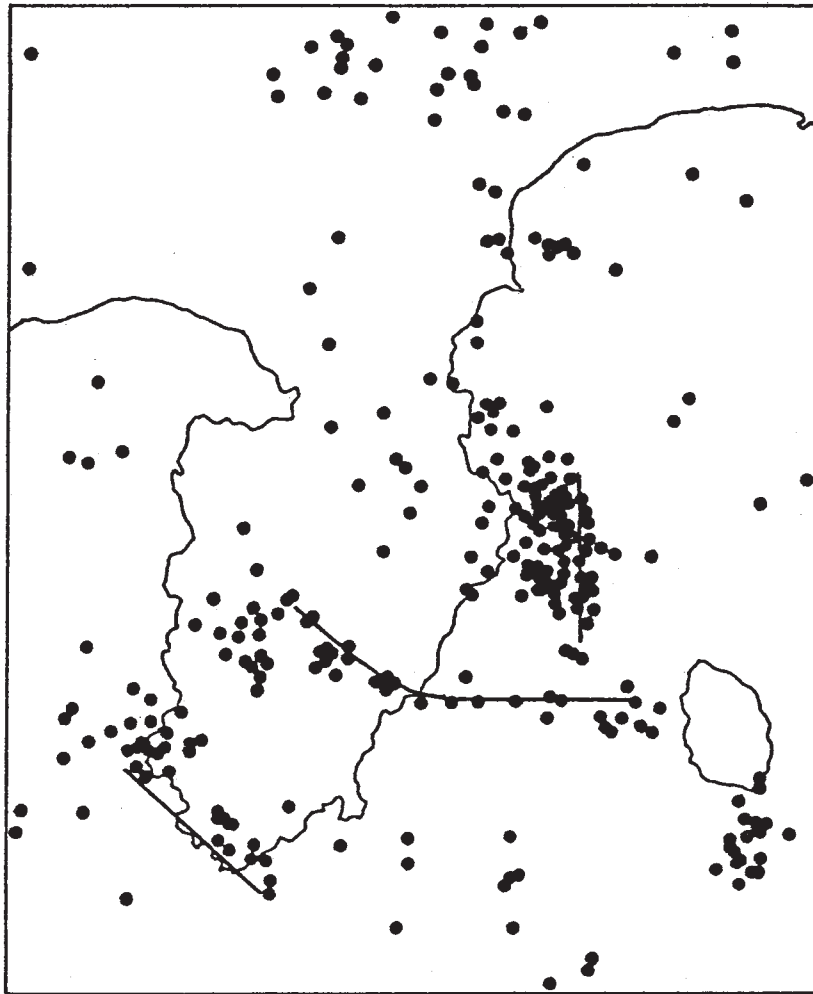
第2図 相模湾西部の海底地形と活断層。貝塚ら（1977の一部）。

Fig. 2 Submarine topography and active faults in the western Sagami Bay region (a part of Kaizuka et al. 1977).



第3図 伊豆半島及びその周辺の1981年1月から8月までの浅い地震の分布。データは気象庁報告による。丸印が震央で、大は $M \geq 3.0$ 、中は $3.0 > M \geq 2.0$ 、小は $M < 2.0$ をそれぞれ表わす。1980年の地震の震央の北側に、ドーナツ型のパターンが認められる。

Fig. 3 Location of shallow earthquakes in Izu Peninsula and its surrounding region during the period (1981, January-August). Data are taken from the JMA report. Large circle:  $M \geq 3.0$ ; medium-sized circle:  $3.0 > M \geq 2.0$ ; small circle:  $M < 2.0$ . A donut-shaped pattern may be recognized in the northern adjacent to the focal region of the 1980 earthquake.



第4図 1980年10月から1981年7月までのマグニチュード0以上の浅い地震の分布。津村(1981)による。

Fig. 4 Location of shallow earthquakes of magnitude 0 and larger during the period (1980 October -1981 July) (after Tsumura, 1981).